



写真・市谷 健 「キラキラ、ピカピカだよ」

読む人の  
幸せを  
心に願って  
作る

# 喜びの タネまき 新聞 no.540

## 時間は宝

全国にあるダスキンの店を一店一店に訪問し、それぞれの街でお客様と接している担当者や店長さん、そして社長さんと話をしています。多い日は一日に十店ほど訪問することもあり、店ごとに時間を約束して伺うようにしています。

先日ある地域に向かう際、搭乗した飛行機の出発が大幅に遅れ、

訪問先の方々に大変ご迷惑をかけました。飛行機が遅れるとわかり直ぐに電話で事情を伝え理解いただいたのですが、ふとそのように説明している自分が情けなくなりました。常に相手の身になり余裕を持って行動していたつもりですし、飛行機が遅れなければ予定どおり訪問できていたはず。しかし、そのようなことまで予見して一本前の飛行機にしていれば、今回のような突発的なアクシデントに見舞われても補え

たのに、と。考えが及ばず、相手の大切な時間を無駄にしてみました。「もし何か起こったら」との気持ちを持って行動していれば予期せぬことにも対応ができ、気持ちにゆとりが生まれてきます。大切にしなければならぬのは自分の時間ではなく、相手の時間を第一に考え行動することだと思いました。

株式会社ダスキン社長

山村輝治

雪国は感じが異なるかもしれないが、子どもにはいつだって雪は特別。不思議なほど静かな白い景色に足を踏み入れる瞬間はいつもわくわくする。

## 「雪の日」

絵と文 中村みつを

イラストレーター、画家。絵と文の作品は自然・旅・人がテーマで、心の和む温かさ。読売新聞夕刊のみなみらんぼうのエッセイ「一歩二歩山歩」に挿絵を描き、新聞連載最多記録14年目。日本山岳会会員。著書に「のんびり山に帰るはのぼる」(山と溪谷社)、「お江戸超低山さんぽ」(書肆侃侃房)、「森のくらし」(リヨン社)など。

目を覚ますと、しんしんと雪が降っていた。雪の日は音が途絶えて静かだ。雪の少ない東京で育ったほどには特別な日だ。真っ白な原っぱで雪だるまや雪合戦に夢中になった。子どもから大人になり、雪合戦をしなくなったが、雪山を楽しむようになった。足跡のない雪道を歩くのは今も好きだ。

遊べたら楽しいだろうと思っていた。ある冬、友人の誘いで初めて山スキーを経験。スキーの板は普通より細く長く、ビンディングは歩くときのために踵<sup>かかと</sup>が上がるようになっていた。クロスカントリースキーのようで、思いのほかバランスが難しく、吹き溜まりの中に何回も突っ込んだ。

の間を滑れるようになった。ぎこちないシユプール。もちろんリフトなんて物もないから、登りは大変だ。それでも見晴らしのいいところまで上がると気分爽快。やっぱり山はいいなと頬がゆるんだ。さっそく山用のガスコンロで湯を沸かし雪上のお茶会になった。

その夜は森のなかの山小屋に泊まった。薪ストーブのやさしい暖かさがかうれしい。雪を被った針葉樹の森は遠い外国にいるよう。ほんやり窓の外を眺めていると冬毛になったオコジヨが顔を出している。ちらつとこちらを見ると、用事があると言わんばかりに森のなかに消えた。ゆったりした気分になって、いろいろな雪の日を思い出した。秋のヒマラヤに行ったとき、村人も驚くほどの大雪に見舞われた。初雪なのにすごい積雪で、ぼくの寝ているテントが潰れ、慌てて石造りの小屋に避難したな…。

翌朝は快晴。天上の村は、一面の銀世界になった。鼻を赤くした子どもたちが雪遊びにはしゃいでいる。ぼくは久しぶりに小さな雪だるまを作ってみた。なんだか、なつかしい時代に戻った気がした。



えっ！これだけの材料で！

## 「揚げニヨツキ」

ジャガイモ、卵、小麦粉があれば出来る、究極の簡単レシピ。アイデア次第で何通りもの味が楽しめます。お腹持ちが良く、そして美味しい！まさに言う事なしの手軽なメニューです。

### ●作り方(2〜3人分)

#### ●ジャガイモ生地

ジャガイモ300gは良く洗い、たっぷりのお湯で皮のまま茹でる。茹で上がってから布巾など使って皮を剥く。電子レンジを使用する場合は、ラップに包んで1個あたり5〜6分加熱する。但し、新ジャガは水分を多く含んでいるのでニヨツキには向きません。

皮を剥いたジャガイモは、ボウルに入れてマッシュヤーなどでつぶし、小麦粉70g、塩少々、卵2分の1個を加えて練り過ぎないようにして混ぜる。練りすぎると、でんぷん質がくっついて出来上がりがベタベタした食感になるので注意。また、卵も少量ずつ入れるのがポイント。

すべて混ぜたらひとままとめにする。生地を直径2cmほどの棒状に伸ばし、1cm幅に切る。そのままでも丸めてフォークで型をつけてもOK。



### ●揚げニヨツキ

180℃に熱した油で約2〜3分揚げる。揚げたてに塩少々をふって出来上がり！ジャガイモの素朴な味を堪能するには塩味で。他にもお子様が好きなケチャップやカレー塩味もおすすめです。青のりや市販の焼きそばソースの粉をかけるとうまさにスナック菓子の味が楽しめます。



### ●ゆでる時は

ニヨツキをゆでる場合は、沸騰したお湯にひとつまみの塩を入れ、浮き上がってくるまで1〜2分。茹で上がったら水気を切り、トマトソースや生クリームとブルーチーズを合わせたソースなどでお召し上がりください。本格的なイタリアンをご家庭で！

## おやつ時間

簡単、美味しい楽ラクレシピ



お料理研究家 こいけりえ



パジャマ体操でおやすみなさい。兵庫県姫路市 黒田愛子



あったかいなあ〜。愛知県安城市 鈴木いく代

おうまさん楽しい♪ 東京都世田谷区 垣内聡子

家族や友だちにしか撮れないステキな笑顔、みんなに見てもらいたいわたし好みの1枚。もちろんかわいいペットも撮れたら送ってください。お待ちしております！(詳細は7ページ)

みてもらおう！

見てうれし、見せてうれし、この写真。わたしの出番の1枚を送ってください。



白い衣に白袴の佐藤さん。

## 面白かりし

## 末はめでたし

## 夜神楽の里

宮崎県高千穂町

収穫祭と豊穰祈願で、毎年11月中旬から2月に催される高千穂の夜神楽。里の神社から氏神様を迎えて里ごとに舞を楽しむ一夜かぎりの場を神楽宿という。舞うと神楽面に神様が宿るといわれ、お祈りして「にぎわう里の栄えるたのしみ」と祝詞があげられると、神座となる神楽宿に太鼓が響きます。「うちでは2回目、12年前が初めて。生涯もう無いでしょう」

と佐藤さん。保存会で教える師匠さんだ。家は農家さんで太い梁と高い天井があり、先祖の写真も立派な百年以上上たつ旧家だが、自宅を神楽宿に提供する家は年々少なくなっているという。

案内してくれた役場の企画観光課の大賀さんが「観光の祭りではなく、村祭りなんです」と強調しているのが印象的。聞けば集落が小組に分かれて、その組から神楽宿の家が決まると20世帯くらいが全員で支援。食事やお茶、お酒の用意や暖房への気配りなど、裏方さんの女性たちも夜通し立ち働く。その夜は3箇所で開催、家には一族郎党が集う習わしだ。大賀さんは途中でぬげ、「これから妻の実家へ。若者はいくら騒いでもよく、子供も遅くまで起きていてもいい無礼講の日なんです」



祭壇の神面「おもて様」。舞うと山に降臨した神が注連縄を伝わって神庭に降りる。



迫力！大国主命（おおくにぬしのみこと）の舞「七貴神」。

高千穂の氏神様の村祭り「夜神楽」は町内20の地区で次々と催される冬の花だ。33番も演目を持つ重要無形民俗文化財だが里人が総出で支え、客人も「一夜氏子」として仲間に入れてもらえる。神も人も迎える神楽宿佐藤弘文さん宅をお訪ねしました。



酒作りの夫婦神が見物人席にも入る、おかしみのある舞「御神体(ごしんたい)」。

備に入る。家中の家具を全部出し、床を直し畳の表替えをする家も。家の名譽だそうだし、さて、今夜の舞い手、ほしや(奉仕者)は16人。休憩はなく、17時に始まり翌朝10時に終わった。見る方も徹夜で、耳の中に歌と太鼓、鈴が響いて言葉も出ない。舞う方はさぞ疲れたらう。33番を全部舞う形は江戸時代末期に完成、歴史は平安時代まで遡るそうだし、それに神様に降りてもらうため、戸口は全面開放。冷たい風の中で舞うのである。

「舞は口伝。所作や儀式を全部出来る人は少ない。今は動画で残せるけど」と佐藤さん。引き継がれてきた歴史に参加したい思いなのだろ。「前から舞いたかった」と還暦過ぎて弟子入りした方は68歳。7歳の少年もいて、大人が「良かったよ！」と肩をたたき、声をかけていた。「歌と舞は不可分。歌がなければ足の踏み出しが決まらない」という佐藤さんが、和歌を連ねているような歌詞を見せてくれた。

大空より御花東ねて我来たよ  
御花の主とは我をこそ言う  
この所 西も東も礼拝し  
遊べばこも神の御座船

神楽を舞う場の神庭は、四方に柵と青竹を立て注連縄を引きまわし、彫り物(里人が祭りのために手作業で切つて飾る紙が白く翻る。神話の厳肅さと昔語りのおかしみ)。神楽は冬の花、今ごろ山は雪だろうか。

「山は雪、水は氷となり果てても」夜を徹して家族や友が集う





### 手紙つきプレゼント

長野県上田市 藤澤四四郎

本業の傍ら、有料道路の料金所に勤めている。北は北海道から南は九州まで、色々な方々がこの料金所を通じて「みすずかる信濃の国」へ入っていく。近くには鹿が教えたと言われる湯治場があり、病院やリハビリ施設もある。

この道を毎日往復してくれている車は、若い女性助手席に色白の可愛い女の子を乗せて通っていて、この少女が愛らしい小さな手を振ってくる。

先日の夕方、帰り際に手紙を添えた小さな赤い袋を手渡してくれた。中を見ると、キャラクターのペロペロキャンディーが2本入っていて、手紙には「おじちゃん頑張つてね」と書いてあった。私は嬉しさが胸が熱くなった。数日後には、お札の手紙を添えて贈り物をお返しした。70歳を迎える私と少女の心の通い合いでした。

—ほのほの嬉しい贈り物。



### 母の着物

新潟県胎内市 伊藤千恵子

母が亡くなって三年。実家のお嫁さんと妹と共に、ようやく着物の整理をした。

「あつ、これ私の入学式に着てくれた!」と懐かしがる妹。小柄な母の着物は私には寸法が全く合わず、着られなかったので、白地で総柄の一反を譲り受けた。母はいつか染めて着ようと思っていたのだらう。

これを着て甥っ子の結婚式に出ることにした。母は孫の結婚式を楽しみにしていて、「お嫁さんを貰うまで生きていられるかなあ」と嬉しそうに話していたことを思い出した。

白地の反物は母の好きだったワイン色に染めた。おめでたい柄が浮き出て素敵に仕上がった。少し奮発して白地の帯を購入したら、いっそう着物が映えた。楽しみにしていた孫の結婚式に、母と一緒に出席できるようで、嬉しくなった。

—晴れ舞台にめぐる懐かしい思い出。



### サカナあそび

兵庫県赤穂市 樽家満智子

宿直明けの主人にメールを送りました。

「お疲れ秋刀魚♡迎えにいけるよ!」

「久し鯉に早い電車で帰れる!」

ダジャレにはダジャレで返信メールが届きました。こうなれば、会話センスの見せ所です。

「久し鯉い? 笑いました!」早く会い鯛♡送信すると、それからメールは返ってこなくなりました。私の勝ちです。はっはっは!

主人は電車が駅に着くまでの数分間、めっちゃ照れていたことでしょうか。(笑)

—ヒラメき勝ち!



### 次男

北海道芦別市 小原匡代

中3の次男は、私に気を遣ってくれます。重い物を持っていると、急いで持ちにきて、手伝ってくれるのは嬉しいのですが、「ごめんね」と決まって言います。どうして謝るのか聞くと、「気がつかなくて」。元気がなく、疲れたり、ため息なんてつこうものなら、飛んで来てヨシヨシしてくれます。頼られる母でいたいのに、と情けない反面、嬉しい気持ちでいっぱいです。

—しあわせですね。



### うちのネコ

富山県黒部市 宮崎里香

体調を崩し、トイレから出て、凍えた体をストーブの前で温めていると、うちのネコが母の部屋から手袋を片方くわえてきて、私の前にそっと置きました。リアクションできなくて苦笑い…。

そのうち、もってきた手袋をまたくわえて、母の部屋へ戻しに行きました。ネコなりに「なにかしてあげたい」と思ったのでしょうか。不思議な心温まるひとときでした。

—猫の恩返し。



### ある日突然

長野県佐久市 小泉慶子

「明日の土曜日、連れて行きたい人がいるので、よろしく」遠方で働いている社会人の息子から珍しく電話がありました。

「えっ!!」こっ、これは彼女ということなのか!? 家の中は散らかり放題になっており、大慌てで片付けをしました。

さて当日、ドキドキして待っていると、いつにも増して、笑顔の息子が女性をともなって帰ってきました。いろいろ話す内に彼女との会話もはずみ、和やかな時間を過ごせました。息子は結婚を考えてお付き合っているようでした。

こういう日って、突然くるんですね。嬉しいけれど、息子もそういう年齢になったんだなあ、とちょっと寂しくもありました。

—ちゅんちゅんサザン。でもおめでとう!



### い〜い?

愛知県幸田町 山本みえ子

2歳になる孫はいろいろな言葉を言うのですが、話すのは単語のみ。なかなか二言以上の会話が出来ません。お菓子を持って「い〜い?」、クレヨンを持って「い〜い?」と言っています。その場の様子から、「食べていいよ」「この紙に書いていいよ」と答えますが、少しでも長い話が出るようにと思い、「そういう時はね、食べていい?」って言うんだよ」と教えます。

そう教えている間に、自分で「いいよ」と言って食べ始めているのです。これには一本やられたと、呆れて笑ってしまいました。

つい最近、そんな孫から「バアバ、リンゴ食べていい?」と言う言葉を聞き、嬉しくなりました。子供の成長ってすごいですね!

—これから楽しみです。

「かわりばんこに乗車中で〜す!」



静岡県沼津市 高橋芳子

みなさまからお寄せいただいたお話をもとに新聞をつくってまいります。どうぞ、あなたが体験した嬉しかったこと、誰かに聞いてもらいたいことなど、身近な話題をお寄せください。

●投稿には、名前、年齢、職業、住所、電話番号、現在ご利用のダスキンの店名をお忘れなく。紙面やホームページでご紹介させていただいた原稿や写真にはお礼をさせていただきます。

●送り先  
〒163-0223  
東京都新宿区西新宿2丁目6番1号  
新宿住友ビル23階(私書箱47号)

ダスキン「喜びのタネまき新聞」編集室  
電話 03(5909)6703  
e-mail: koho4@mail.duskin.co.jp

No.419からのバックナンバーが下記のアドレスからご覧になれます  
http://www.duskin.co.jp/tanemaki/

4-5ページの「高千穂の夜神楽」の連絡先

・高千穂町役場  
〒882-1192 宮崎県西臼杵郡高千穂町大字三田井13  
企画観光課 TEL:0982-73-1212  
ホームページ: http://www.town-takachiho.jp/

・高千穂町観光協会 TEL:0982-73-1213

### 燈々無尽

苦しさをバネにする  
泣きたい時には、泣き  
苦しい時には  
じっと、こらえること。  
そして、今、やれることは  
この苦しさをバネにして  
自分自身の人間を  
みがくことです。  
あの苦しさのおかげで  
人間成長が出来ました  
と、いつの日にか  
お礼の言える  
自分になることです。

鈴木清一

### 愛の輪からのコラム

from AINOWA

人にやさしいグローバルな視点って?

### 手厚い「おもてなし」の心 フィリピンのホスピタリティー

東京オリンピックの招致活動で話題を呼んだ、日本の「おもてなし文化」。フィリピンには、驚くほど手厚いおもてなしの心「ホスピタリティー」が根づいています。例えば初対面のお客さまにも、食事やお茶に踊りなどで精一杯歓待しますし、贈り物をもらったら、贈り主の心に深く感謝します。自分を取り巻く誰もが笑顔で心地良くという考えが原点。だから、困っている身近な人への心遣いも自然に生まれるのです。

このコーナーについてはダスキン愛の輪基金まで。  
☎06-6821-5270 HP (http://www.ainowa.jp/)

愛の輪は日本とアジアの地域社会のリーダーを目指す障がいのある若者に、海外での研修支援を行っています。

ホームインステッドはご高齢者が  
住み慣れた家で快適に暮らす  
お手伝いをしています。

高齢化社会が進む中、ダスキンは社会にお役立ちすることを願い、アメリカのホームインステッド・シニアケア社と提携し、2000年にホームインステッド事業をスタート。わが家(=ホーム)でご家族の代わりに(=インステッド)、24時間365日いつでもご高齢者の暮らしのお手伝いをしています。近年は認知症介護に力を入れ、ご高齢者やそのご家族との信頼関係を大切に、食事作りや夜間の見守りなど百人百様の介護サービスをめざしています。

※公的介護保険は適用されません。

安心して  
母をお任せ  
できるわ~



懐かしい  
故郷の味だわ

お味は  
いかがですか?

あなたの**声**が原点です。  
私たちは、そのお声とともに歩みつづけます。

ダスキンが大切にしたいのは、あなたの声——。  
ぜひ、あなたの想いをお聞かせください。

お客様の声はインターネットにて承っております。

ダスキンお客様の声 検索

www.duskin.jp/voice

今号のキーワード

「かいご」

ハガキに書いてご応募ください!



「楽しいローズセット」を  
プレゼント!

- 台所用洗剤 ローズの香り:2本
- 薬用ハンドソープ ローズの香り:1本
- レンジまわりふきんピンク(1枚入):1袋
- 台所用スポンジ抗菌タイプ  
くまモンのスポンジ:1個



抽選で  
50  
名様に

©2010熊本県くまモン #8155

下記の要領でご応募ください。

- ハガキに  
①今号のキーワード ②郵便番号 ③住所 ④氏名  
⑤年齢 ⑥性別 ⑦電話番号 ⑧ご利用のダスキン店名  
⑨この新聞内で好きなコーナー  
をご記入の上、下記あて先までお送りください。

- 応募専用のあて先 ※郵便番号とあて先のみで届きます。  
〒163-0265 住所は不要です。

(株)ダスキン「喜びのタネまき新聞no.540」プレゼント係

- 締め切り 平成26年3月21日(金)当日消印有効
- 当選者の発表は、プレゼントの発送をもってかえさせていただきます。(平成26年4月中旬お届け予定)
- 応募に関してのお問い合わせ TEL:03-5909-6703  
※抽選結果に関するお問い合わせはお受けできません。予めご了承ください。  
※ダスキン関係者の応募はご遠慮ください。

今回ご応募いただいた個人情報については、(株)ダスキンの範囲内でのみ利用させていただきます。プレゼントの抽選・発送の目的以外には使用いたしません。個人情報に関するお問い合わせや、ご自身の個人情報の開示・訂正・利用停止については、(株)ダスキン「喜びのタネまき新聞」プレゼント係 TEL:03-5909-6703 までご連絡ください。

●この新聞をお届けしているのは

株式会社 **ダスキン**

発行：広報部 〒564-0051 大阪府吹田市豊津町1-33

編集：「喜びのタネまき新聞」編集室

〒163-0223

東京都新宿区西新宿2丁目6番1号 新宿住友ビル23階(私書箱47号)

TEL:03-5909-6703 FAX:03-5909-6771

【お客様の個人情報のお取り扱いについて】

お客様の個人情報は商品のお届けや回収、サービスの提供に利用させていただきます。また、後日商品やサービスのご案内をさせていただきます場合があります。なお、お預かりした個人情報はダスキングループと加盟店の範囲内で利用させていただきます。配送業務等で個人情報を外部企業に委託する場合は、弊社の厳正な管理の下で実施します。個人情報に関するお問い合わせや、ご自身の個人情報の開示・訂正・利用停止については、下記ダスキンコールセンターまでご連絡ください。

■ダスキンコールセンター

**0120-100100** www.duskin.co.jp